



ぶれぶれの支社対応！

団交要求はしたけれど・・・

3月のダイヤ改「正」では、特に特急に関することが大幅に変更されることから、団交でも「利用者に対して理解を得られるよう、周知徹底を強化すること」を訴えてきました。

既にパンフレットが作成さ

れ、駅や特急車内に置かれてきましたが、更に座席裏に全席指定席化に関する注意事項のシールが貼られました。

が、これが非常に見づらく、かつ分かり辛いもので、現場車掌や利用者からも苦情が出ています。内容をここで載せられ

れば良いのですが、私たち現場社員が作ったら、もう少し要領を得



たものが作れたはずですが。この場面でそれほど重要でないことが書かれている反面、もう少し説明が必要なものが抜けていたり・・・。何よりお粗末なのは、おそらくシールを完成させてから、一番重要な「3月から」を記載するのを忘れた？のか、余白と思われるスペースに、黄色地であわてて付け加えたような部分があることです。

黒地（グレー？）に小さな白文字で、字数も多いせいか、非常に読みづらく、年配者などは読む気になれないかもしれません。着席後にひとり一人読んでもらうという発想は良かったと思いますが、如何せんこの小さなスペースでは無理があったのは否めません。

大丈夫か？！この会社！

記載内容に関しては、車掌にとって、利用者にとって、何が必要なかが分かってない証拠です。利用者きちんと伝えるべきものなのに、何かどれもこれもが、やっつけ仕事の形式的な気がしてなりません。パンフレットも分かりづらく、現場（駅、車内）に置いて、そのあとはほったらかし・・・では、利用者の理解など得られないのではないのでしょうか。支社社員が現場に赴き、きちんと利用者に向き合う等の対応が今こそ必要です。

うたてつ ノススメ23

指定券（さだまさし）1976年11月

もうこれまでねと 君はうつむいて
左の頬だけで にっこり笑った
北口改札を 仔鹿のように
鮮やかにすりぬけて 出て行った
せめてものお別れに
一度だけ 振り向いてくれたのに
丁度今着いた 修学旅行の
制服たちが 君をかき消して
最後の声さえ 喰べてしまふ

長いエスカレーター 昇って降りて
やっとの思いで 出した答え
始める前から 終わる旅もある
やはり野に置け れんげ草
せめてものはなむけに
一度だけ 手を振ってみせた
うしろ姿をつつむ紙吹雪
それは僕の ふるさと行きの
季節はずれの 指定券

「精霊流し」「無縁坂」といった暗めの歌ばかりがヒットしてしまったグループ解散後、ソロデビューシングルとして発表した「線香花火」（やはり暗い！）のB面の曲。

この曲のイントロの前には「16時30分発さくら号・・・間もなく発車します」とか実際の駅の放送が入っている。にくいね！

「エスカレーターを行ったり来たり」しながら悩み続け、やっとの思いで出した答えは、別れ話が決定的になったという展開だが、時系列で進めないのが、何かこれも映画的である。「左の頬だけでにっこり笑った」とか「やはり野に置けれんげ草」とか、この人ならではのインテリっぽさが鼻につくが、かといって奇をてらって無理に作ったわけでもなさそうなのは流石というしかない。後者は「れんげ草は野に咲いてるからき

れいなのであって、それを摘んで帰って家に置いても・・・」という戒めの言葉。元々は昔の俳人が、友人の遊女の身請け話を聞いて作った句らしい。へー。この曲の場合だと「最初から無理だったんだよね」というあきらめるのに必要な言葉だったのか。さて、肝心のこの曲のシチュエーションだが、未だにはっきり分らない。「君」を連れてふるさと行きの列車に乗ろうとするも、「君」は改札口を出て行ってしまい、計画は破綻してしまふ。じゃ、ちぎって投げて紙吹雪となった指定券は「僕」のものなのか、「君」のものなのか。「僕」はそれでもふるさと行きの列車に乗ったのか。色んな解釈が出来そうだが・・・。
チケットレス化でその内「指定券」なんて言葉も死語になる日が来るのかも。紙吹雪のゴミもなくなり駅もきれいになるってが！